第11課　礼拝における一致

【暗唱聖句】

「わたしはまた、別の天使が空高く飛ぶのを見た。この天使は、地上に住む人々、あらゆる国民、種族、言葉の違う民、民族に告げ知らせるために、永遠の福音を携えて来て、大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい」黙示録14：6，7

【今週のテーマ】

教会とは本質的に礼拝する共同体です。礼拝とは何か、どのように礼拝すれば良いのかを学びます。

【日曜日・私たちの創造者、贖い主を礼拝する】

聖書は「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きのときが来たからである。天と地と、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい（伏し拝め・口語訳）」（黙示録14:7）と書かれていますが、神様を礼拝するとは実際に何をすれば良いのでしょうか。

態度…神様を畏れる。ひれ伏す。神様をたたえる。栄光を主に帰す。

対象…天地万物を創造された創造主。自分たちは神様から創造された存在であるという意識。

実際に天においてどのような礼拝がささげられているのか見てみましょう。

「4つの生き物が…昼も夜も絶え間なく言い続けた。「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者である神、主、かつておられ、今おられ、やがて来られる方。」玉座に座っておられ、世々限りなく生きておられる方に、これらの生き物が、栄光と誉れをたたえて感謝をささげると」（黙示録4:8，9）

ここを見ると、天においては昼も夜も神様に礼拝をささげられている様子が描かれています。礼拝とは昼も夜もささげられるべきものであることがわかります。また4つの生き物は神様に対して、「聖なる方」「全能者」「世々限りなく生きておられている方」との意識をもって、その栄光と誉をたたえ、感謝をささげています。

「二十四人の長老は玉座に着いておられる方の前にひれ伏して、世々限りなく生きておられる方を礼拝し、自分たちの冠を玉座の前に投げ出して言った。「主よ、わたしたちの神よ、あなたこそ、栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。あなたは万物を造られ御心によって万物は存在し、また創造されたからです」黙示録4:10、11

天の24人の長老は、冠を捨ててひれ伏しています。そして、創造主である神様を意識し、神様がいかに栄光と誉と力を受けるにふさわしい方であるかを認め、たたえています。礼拝において重要なのは、へりくだった思いをもって、わたしたちが聖なる創造主なる神様の御前にいるという意識を持つことです。そして、すべての栄光を神様に帰し、たたえていく態度です。これをぬきに真の礼拝はありえないのです。

またガイドの著者は、「礼拝とは神の創造と救済に感謝する人間の応答」あるいは「礼拝とは神の奇跡（創造や贖い）に対する私たちの信仰の応答」と説明しています。礼拝においてわたしたちは神様がお受けになる礼賛、畏敬、称賛、愛、感謝、服従などを「霊と真」とをもって捧げていきます。

【月曜日・偽りの礼拝】

「悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った」マタイ4：8，9

ここに偽りの礼拝があることを教えています。この世の富や栄光を求めるものは、すなわち悪魔にひれ伏し礼拝していると同じです。悪魔は交換条件として自分を拝むならこの世の富と栄光を与えると言っていますが、わたしたちは神様の御前にひれ伏し礼拝するのは、何かが欲しいからではありません。また、そのような思いを持って神様を礼拝するなら、それは偽りの礼拝に陥ってしまうことでしょう。

「ネブカドネツァル王の建てられた金の像の前にひれ伏して拝め。ひれ伏して拝まない者は、直ちに燃え盛る炉に投げ込まれる。」ダニエル3：5，6

　またダニエル書3章にあるように、悪魔は偶像を拝むように誘惑してきます。真実の神様以外のものを拝み、頼るように仕向けることで、天地万物をお造りになった本当の神様から人間を引き離そうとしているのです。そして、真実の神様以外のものを拝むとき、何を拝んでいようともそれは間接的に悪魔を拝んでいることにほかなりません。つまり、人間の心を神様ではなく自分に向けるように仕向けるのが悪魔の策略なのです。

「竜が自分の権威をこの獣に与えたので、人々は竜を拝んだ。人々はまた、この獣をも拝んでこう言った。「だれが、この獣と肩を並べることができようか。だれが、この獣と戦うことができようか」黙示録13：4

ダニエル書に出てくる3人の青年は最後まで金の象を拝むことが拒否しました。日本でも戦時中教会に神棚を設けて拝むように強制されました。SDAはそれを拒否したために弾圧されました。神様以外のものを拝もうとする誘惑や強制的に拝ませようとする力は、終末時代にはますます世界的な規模で顕著に表れてくることでしょう。その中でも注視しなければならないのは、黙示録に描かれている「獣」です。この獣に竜である悪魔は自分の権威を与えます。多くの惑わされた人々はこの獣を拝むことで、間接的には悪魔を拝むようになります。獣は、ローマ法王あるいはローマ法王権力と解釈することができます。ローマ方法が持っている力と影響力を考えると、まさに最後の時代に入ってきたという思いを強くさせられます。

「…獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も安らぐことはない」黙示録14：11

しかし、獣とその像（シンボル…日曜礼拝など）を信じ、拝むなら、獣の印を受け、昼も夜も安らぐことがなくなります。神様を拝む人が得る平安と愛の対局にあることがわかります。

【火曜日・第一天使の使命】

私たちは黙示録14章の6～12節に描かれている三人の天使が告げたメッセージを伝えることを宣教の柱としています。それは最終時代に生きていると自覚しているからです。その中でも第一天使の使命と呼ばれるものは重要です。

「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい」黙示録14：7

なぜ神様を畏れ、その栄光をたたえなければならないのか、その理由は神の裁きの時が来たからだと天使は告げています。非常に切迫感と緊張感がみなぎっています。神様を畏れずにはおれない気持ちにさせられます。特に神様を軽く考えている人々にとっては恐怖すら呼び起こすことでしょう。しかし、私たちは目覚めなければならないのです。時がないからです。本来、神様を畏れ敬うとき、喜びが湧き上がります。愛されていることがわかるからです。救いへと招かれていることがわかるからです。そのような神様との正しい関係を築くことが大切であり急務なのです。

また単純に神様を礼拝しなさいではなく、「天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい」とあることから、多くのクリスチャンがなおざりにしてきた創造の記念日であり、私たちが聖なる民であることの印である安息日を守るようにとほのめかされていることもわかります。最終時代の危機における中心は礼拝です。安息日も含めて正しい礼拝を捧げていくことが、いよいよ重要になってくるのです。

【水曜日・聖書研究と交わり】

「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」使徒2：42

初代教会の人々は聖書研究を通して交わっていました。神様から与えられた御言葉を一緒に学ぶことによって、信仰の歩みの共通理解を持つことができ、また互いに励ましあうことができます。このことは正しく一致するために重要なことです。

「この見つかった書の言葉について、わたしのため、民のため、ユダ全体のために、主の御旨を尋ねに行け。我々の先祖がこの書の言葉に耳を傾けず、我々についてそこに記されたとおりにすべての事を行わなかったために、我々に向かって燃え上がった主の怒りは激しいからだ。」列王記下22：13

国が衰退したのは聖書の言葉に耳を傾けずそれに従わなかったからだとユダの王ヨシアは語っていますが、聖書を研究し神様の御心を知ることがいかに大切であるかをよく表している事例です。

「ここのユダヤ人たちは、テサロニケのユダヤ人よりも素直で、非常に熱心に御言葉を受け入れ、そのとおりかどうか、毎日、聖書を調べていた」使徒17：11

テサロニケのクリスチャンは毎日聖書を調べました。私たちが一致した兄弟姉妹でいることができるのは、聖書の言葉の研究から導き出された真理のゆえです。また一致して礼拝をなし、一致して三天使の使命を果たすことも、御言葉が土台となっていなければなりません。

【木曜日・パンを裂くこと】

「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった」使徒2：42

初代教会には様々な問題がありましたが、イエス様に対する信仰と福音を述べ伝えるということにおいて一致していました。彼らが一致していたことの大きな印として、「パンを裂くことに熱心であった」ということがあります。これは共に食事をしたということです。パンを裂くことと祈ることが併記されていることから、ただ単に共に食事をしただけでなく、それは祈りのときともなっていたことがわかります。

「そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」使徒2：46，47

毎日ひたすら心を一つにして神殿に行くことと、家ごとに集まってパンを裂くことを同時に行っています。霊的な交わりと肉的な交わりを一緒に行っていることがわかります。